

前号では、八朔祭屋台飾幕について紹介しました。現存する飾幕の内、下町の後幕「虎」には「東陽画狂人北斎」、仲町の後幕「桜に駒」には「鳥文斎藤原栄之」、早馬町の中幕「裸馬群像」には「南柳斎文朝」の落款が認められ、これらは江戸時代を代表する有名な浮世絵師のものでした。

今回は、これらの浮世絵師について紹介します。

下町屋台飾幕「虎」に認められる「東陽画狂人北斎」は、江戸時代に妖怪の異名をとった葛飾北斎です。

北斎は、九十年におよぶ長寿をまっとうしましたが、この間、度々画号を替えたといわれ、この「東陽画狂人北斎」は、北斎が四十歳位の時のものと推定されています。

北斎は、宝暦十年(1761)江戸の本所で生まれ、十四歳のころ



葛飾北斎の「富嶽三十六景」

から彫刻を学び、十九歳から本格的な浮世絵を始めたとされています。その後、狩野派・土佐派などを学び、それぞれの長所を取り入れた、独自の一家風を確立しました。その後も諸国を旅してまわり、歴史画・花鳥画・戯画、美人画など、数多くのすばらしい作品を残しています。

特に、風景画を浮世絵のなかに取り入れた「富嶽三十六景」は、彼の代表作と言われています。「虎」は、竹林を背景にして、四肢をふんばり、筋肉隆々とした力強い雌雄の虎が描かれており、現在でも新鮮で迫力のある図柄です。

仲町屋台飾幕「桜に駒」に認められる「鳥文斎藤原栄之」は、喜多川歌麿と同じ頃に美人画で名を馳せた藤原栄之で、その絵に描かれる背の高い美しい女性は、当時の庶民に大変愛されたといわれています。

栄之は、宝暦六年(1756)に、幕府勘定奉行であった細田家に生



仲町屋台後幕 「桜に駒」



下町屋台後幕 「虎」

まれ、狩野栄川院典信について画技を学び、十代將軍家治に仕えて絵の具の御用を勤め、御納戸役五百石取りの旗本となりました。しかし三年で浮世絵師に転向し、数々のすばらしい肉筆画を残しています。

「桜に駒」は、満開の桜が春風によつて花吹雪となり、春風に駒がいなく様子が見事に描かれており、迫力のある作品に仕上がっています。

これらの飾幕は、歴史的にも、芸術的にも非常に貴重であり、他の地域にも誇れるすばらしい文化遺産です。八朔祭の際には、是非この飾幕をご覧ください。

社会教育課 文化振興係

八朔祭屋台飾幕展

八朔祭屋台飾幕は、葛飾北斎、藤原栄之など、江戸時代を代表する有名な浮世絵師によつて下絵が描かれ、舶来のラシヤ地に金糸、銀糸で豪華に装飾が施されたもので、近世後期の谷村の繁栄を物語る貴重な文化遺産です。

この八朔祭屋台飾幕を一堂に展示する「八朔祭屋台飾幕展」を開催します。

会期 9月10日(水) 10月5日(日)

(月曜日、祝祭日の翌日は休館)

場所 ふるさと会館 一階展示ホール

時間 午前9時30分 午後4時30分

問合先 社会教育課 文化振興係

豊国が描く 江戸の風俗展 開催

歌川豊国は、江戸時代の役者絵の第一人者です。有名な東洲斎写楽と肩を並べ、江戸の町人の人気を博しました。

商家資料館では、今回、この豊国の描いた「江戸の風俗」を展示します。来観して江戸の粋を感じてください。

会期 9月9日(火) 10月5日(日)

開館日 火・木・土・日・祝日

場所 都留市商家資料館

時間 午前10時 午後4時 問合先 社会教育課 文化振興係

(仮称)都留市郷土博物館

建設に向けて起工式

8月7日、関係者約80名が出席し、(仮称)都留市郷土博物館の起工式が行われました。

博物館は、今後、本体・外構工事に続いて、展示工事を実施し、平成11年4月の開館に向けて、諸準備を進めてまいります。



お詫びと訂正

先月号7ページ八朔祭屋台シリーズに掲載した写真説明で「早馬町の屋台に飾られる後幕 牧童牛の背に笛を吹く」とありましたが、「下町の屋台に飾られる後幕 虎」の誤りでした。訂正し、お詫びいたします。